

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100583		
法人名	有限会社 きずなの里		
事業所名	きずなの里 みなと 1階		
所在地	愛知県名古屋港区東茶屋1丁目462番地		
自己評価作成日	令和5年8月18日	評価結果市町村受理日	令和6年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371100583-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員間のチームワークを大切にして、利用者個々の体調の変化を伝え合い、健康管理には、特に力を入れている。又、利用者のペースに合わせた日常生活を過ごしてもらえるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームについては、身内の方と疎遠になっている方の身元保証を主な事業として行っているNPO法人と連携を行いながら利用者の支援が行われていることが特徴でもある。NPO法人の担当職員とも連携しながら、利用者一人ひとりに合わせた生活の実現につながる支援が行われている。利用者の中には、入居前からの方との交流ができるようにホームからも支援が行われており、外部の方との交流が困難な状況にあっても、今までの関係の方との関係継続の機会にもつながっている。また、ホームでは、協力医療機関との柔軟な連携が行われており、協力医との定期的及び随時の情報交換が行われている。利用者の健康状態等にも合わせた受診や入院等の対応が行われていることもあり、身体状態の重い方もホームでの生活を継続することができるような支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、その人らしく、楽しく、健康な生活を送る為、又共同生活の大切さを考えてある 理念を実践に生かせる様、額に入れ、職員が通る廊下に掲示しており、生活のなかに取り入れている 職員の勤務表にも記載している	ホームの基本理念を職員による支援の基本としており、毎月の勤務表に理念を掲載する工夫も行いながら、職員間の共有に取り組んでいる。また、理念と合わせて支援の基本方針を記載した文書も掲示し、理念の実践にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設自体が自治会の会員になっており、回覧物を廻してもらったり、行事への参加の誘いを受けている 秋礼祭には祝儀を納めている 開所当時より暖かい目で見守ってもらっている 散歩時もあいさつを交わせるようになっている	ホームは地域の自治会に入り、回覧板等を通じて地域の方との交流が行われており、地域の催事の際にはホームからも寄付等で協力する取り組みが行われている。また、管理者が地域の方でもあり、地域の方との交流につなげている。	地域の方との交流が限られた範囲となっている状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、近隣の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にいきいき支援センター・医師及び看護師に出席してもらい、報告や話し合いをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議議事録を掲示し、内容を公開している 文書報告だけでなく、職員との打ち合わせの場で発表することもある	会議については、今年度より対面方式で再開しており、会議の関係者との情報交換等が行われている。会議の際には、協力医療機関の医師の参加も得られており、医療面での情報交換等の機会につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故の報告をしている 生活保護を受けている入所者は入院等の報告をしている 生活保護を受けている人も多く、区役所の担当者の出入りもある	ホームには、身寄りのない方も生活していることもあり、関連のNPO法人とも連携しながら市担当部署との情報交換等を行い、ホームの運営につなげる取り組みが行われている。また、運営法人の幹部職員が指導者として市の研修等に協力する取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はしていない 各居室にも鍵を付けていない 平成30年4月18日に身体拘束廃止委員会を充足し、2カ月に1度、委員会を開催している	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、玄関等の出入り口に施錠を行わないように職員間での見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修を実施し、職員の注意喚起や振り返り等につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きない様、職員同士が助け合い入所者と接している 高齢者虐待に対するプリントを度々配付し、ミーティング・勉強会を実施している 職員は気持ちに余裕を持ち、大きな器で利用者に接するように努力している 言葉・態度・接し方の虐待も視野に入れ、職員のレベル向上に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	きずなの会との連携で権利擁護センターを活用している人がいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を説明するとともに、同意書に署名してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・不満・苦情は、職員が聞き、その後管理者が利用者ひとりひとりと個別に話し合いをしている	当ホームの利用者は関連のNPO法人の会員であり、法人代表者がNPO法人の幹部職員でもあることで、関連のNPO法人の担当者を通じて利用者からの要望等の把握も行われている。また、年2回以上のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、管理者が聞き、運営者に報告している 管理者は、働く意欲の向上につなげる為、ミーティング等で提案を出し合い、職員の声に耳を傾けている 管理者がたまに勤務を手伝うことがあり、直接話しかけている	ホームでは、毎週火曜日を職員間でのミーティング等にあてており、職員間で意見交換を行い、管理者を通じてホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員の勤務時間を固定することで、職員が働きやすい環境をつくる取り組みも継続している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間で問題が起きた場合、管理者が間に入り、お互い遠慮しあわず話し合いをしている 又、原因追究をし、お互いが協力し合える様な環境作りを心掛けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員は、先輩職員(複数)について4週間程度の研修を受けている フロアーを移動する職員は、先輩職員(複数)について1週間程度の研修を受けている 何でも聞きあえる環境になっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設である、きずなの里ひがし・みやまの里との情報交換はしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が利用者の話を聞き、受け止める努力をしている ミーティングで発表すると共に、改善にむけ話し合いを重ねている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のいない利用者が多いが、家族代理と話しをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族のいない利用者が多いが、家族代理と話しをしている きずなの会との連携で他のサービス利用も活用している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と対等に話し、お互いに理解し合い、ありがたうと言ひ合える関係が築けていると思う 負担を考え、一人一人の能力に合わせた手伝いをお願いしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のいない利用者が多いが、家族代理と話しをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人と電話のやり取りがあり、訪ねて来られる時がある	利用者の多くが、入居前の関係の方と疎遠になっている現状があるが、利用者の中には関係を継続している方もおり、法人代表者も協力しながら関係が継続できるような支援が行われている。家族との関係を継続している方は、家族との外出等が可能である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族のない利用者が多い環境の中、利用者同士で助け合う姿をよく見る 利用者が孤立しないように気を配り、声かけをしながら出来ることを見つけている 又、衝突が起きない様、職員がさり気なくフォローしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院中の利用者へのお見舞いをしたり、洗濯物などのお世話をしている 葬儀にも参列している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人に合わせ希望を聞き、思いを聞き漏らさない様努力している、特に遠慮がちな方にはあえて声を掛けている 体操・レクリエーションなどは、全員参加を目指している	職員間で利用者に関する意向等の把握が行われており、日常的な情報交換等も行いながら職員間での共有が行われている。また、職員間でカンファレンスの時間もつくりながら、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるかぎり生活環境を変化させない様、努めている 生活歴等は、介護サマリーで確認し、わからない事は利用者の話をよく聞く様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を見守り、毎日を日誌に記録し、全職員が現状を把握している その日の体調に合わせて、居室で休む時間を作ったり、体の状態に応じ、職員がマッサージを行う時がある		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医者・看護師等の意見を取り入れると共に、日々の生活の中でまずは職員同士が話し合い、管理者に意見を求める様な仕組みができています 又、その課題を介護計画に生かしている	介護計画については、3か月を基本に見直しが行われており、利用者の状況等に対応した検討が行われている。職員の勤務時間が固定されている利点も活かしながら、利用者に関する変化等を把握し、定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活を見守り、毎日を日誌に記録し、全職員が現状を把握している ミーティングにて観察力・思い・考え方の違いを統一するよう、しっかり話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態によって、往診だけではなく、精神科・皮膚科・泌尿器科・歯科・眼科・整形外科への通院等をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの落語・マジック等の公演を行いたいが、今はコロナで中止している 防災業者に協力してもらい、防火災訓練をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診を受けている 利用者の体調によっては、週に1度の往診を受けている かかりつけ医の指示により、他科への受診も行っている	当ホームと協力医療機関とは、医療面での密な連携が行われており、協力医や看護師による定期的及び随時の医療面での支援が行われている。また、利用者の健康状態に合わせた受診等も含めた対応も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師に、週に1度の訪問を受け、看護記録に、細かな指示がある、又往診時の受診に繋げている 管理者は、職員にその指示によるキズ等の処置方法を周知している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と入院先とは同じ医療機関なので、連携はしっかり取れている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族のいない利用者が多いが、家族代理と話しをしている かかりつけ医と入院先とは同じ医療機関なので、連携はしっかり取れている	身体状態の重い方も生活を継続することができるように、協力医療機関と連携しながら、その方に合わせた対応が行われている。協力医とも情報交換を密に行いながら、利用者の身体状態に合わせた協力医療機関への入院等の対応が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期だが応急手当や事故発生時の初期対応の研修をしている 管理者を中心に職員同士の話し合いをしている 急変時の対応をマニュアルにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、その後の話し合いにて、次の訓練の課題にしている 又、停電時の自家発電への切り替え訓練なども実施している 平成24年1月19日に港区消防署より、令和3年1月6日に、名古屋市消防長より、優良防火管理者表彰を受けた	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。職員間で避難経路の確認を行う取り組みも行われている。また、ホーム内に水や備蓄品の確保が行われている他にも、非常用発電機の設定も行われている。	地域の方との協力関係の取り組みについては、新たに移転してきた住民が増えている現状もある。可能な範囲で交流の機会をつくる等、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりへの接し方や言葉を選び、失礼の無い様に心掛け、些細な事でも耳を傾けている 嬉しくなったり、楽しくなったり、明るくなる様な接し方をしている 個人情報には外に持ち出さないようにしている	職員による利用者への支援についても記載がある文書の掲示も行いながら、職員間で利用者への対応や言葉遣い等に関する意識向上につながる取り組みが行われている。また、職員間で利用者に関する意見交換を行いながら、利用者を尊重した対応につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話が上手く出来ない利用者の言葉にもじっくり向き合っている 何か思いがあっても言えない場合は、引き出す声掛けをしている テレビのチャンネル・レクリエーション内容・着替え・口腔ケア等、自己決定はなるべく自分でしてもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた日常生活を過ごしてもらえるように努めている やりたくない時には、無理をさせない様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1月半に一度床屋さんに来てもらっている 職員は、利用者が気に入り大切にしている服を把握し、希望に沿うように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り・皮むき・盛り付け等、食事準備の手伝い、食後の食器洗い・食器拭き・床のモップ掛け等、役割分担が決まっています、自ら手伝いをしてもらっている	食事については、基本的なメニューを参考にしながら職員により調理が行われており、利用者のできることに参加する機会がつけられている。また、季節等にも合わせた食事の提供や利用者の身体状態等にも合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能と好みを考慮した食事形態を模索し、盛り付け方やメニューの工夫で、個々に適した摂取量となる様にしている 水分量に関しては、摂取表を作成している人もいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きがスムーズに行える様、声かけをし、状態に合わせて職員が行う 全員、毎日義歯消毒をする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々に排泄のリズム・癖を職員全員がつかんでいる 排泄物の量・色等も、毎日記録している 2人介助で行っている人もいる	利用者の排泄記録を残し、職員間で情報交換等を行いながら、一人ひとりに合わせた支援が行われている。トイレでの排泄を継続できるように、協力医や看護師との連携も行いながら、利用者の排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排便リズムに合わせて下剤の服用やマッサージや浣腸を使用する人もいる 水分を多くとり、運動もしている 水分量・運動・排泄のチェックをしている 朝・昼2回は必ず全員で体操をする 独自の元気体操を毎日行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったり入浴してもらえる様に時間をとっている 皮膚の状態により毎日シャワーをしている人もいる 爪白癬・水虫のある人は、毎日足浴を行い、薬の塗布をする	利用者が週2回の午後の時間に入浴ができるように支援が行われているが、利用者の状況に合わせた随時の対応も行われている。利用者の身体状態に合わせた職員2名での支援も行われている。また、季節等にも合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を設けずに、利用者個々が決定している 体調が悪そうな時は、声かけして休んでもらっている 昼間の休憩はリビングでしている人が多い 昼寝の時間を設けている人もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者の指示で服用後の症状の変化に注意している 判断が出来ない場合は病院へ連絡を取っている 誤薬・飲み残し・落薬等を防ぐため、事故報告書を書き発表・回覧をし再発の防止に繋げている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1度の誕生日会・毎日のレク・家事の手伝い・掃除等の手伝いや、ごみ箱織りを毎日やっている人もいる 利用者個々に飲み物を購入している 週に一度のヤクルト訪問販売もしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍になり、以前のように全員で外食をする事は控えているが、近所の散歩や庭の散歩が安全に行える利用者は日常的に行っている 庭の草花を摘み、飾っている人もいる	感染症問題の状況もあり、利用者の外出の機会が限られた範囲となっている。ホームの敷地の庭の整備が行われていることもあり、利用者の状況等にも合わせて庭を散策する機会をつくっている。	利用者の外出の機会が限られた範囲となっていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は施設側で管理しているが、希望者には月々お小遣いとして一定額渡し、個人の財布でお金を管理している利用者もいたが、管理場所を忘れることにより、盗難事件へと発展してしまうことがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話で、本人が直接家族や友人に連絡を取っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	故人の制作したパズル・貼り絵を思い出として、廊下・休憩室に飾っている リビングには、塗り絵・手作り作品を自由に飾れるスペースが用意してある 庭には季節ごとの花が咲き誇り、テーブルには庭や散歩で摘んだ花を生けている トイレは絶えず清潔に心掛けている	ホームのリビングは限られた広さとなっているが、通路が広いこともあり、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような配慮も行われている。また、リビングや通路の壁面には、利用者の作品の掲示を行う等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では利用者同士が楽しく過ごせる様に席順等を工夫している 食事以外はすきな場所に座り、仲良く話をつけているが、喧嘩をする時もある 一人でテレビを観たい人は、居室で時間を決めずに観てもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や思い出の品・贈り物の花やぬいぐるみが飾られている 位牌のある部屋もある	居室については、身内の方と疎遠になっている方も生活している状況でもあるが、利用者の意向等にも合わせて好みの物等を持ち込む等、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。利用者の中には、身内の方の写真等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている 居室には表札を出して自分の部屋が分かるようにしてある トイレ・風呂の表示をしてある 行動制限をするのではなく、職員が常に利用者の行動を把握し、見守りや介助を行えるよう、扉に風鈴やベルチャイムを付けるなどの工夫をしている		